木次小学校　学校だより　令和3年度　第３号　　R.3.7.21

木次っ子の四季

～互いに互いの成長を喜び合う学校～　　校長：伊藤彰彦

木次小 HP はこちらです。

７月の大雨におきまして、被災された方々に、お見舞いを申しあげます。１日も早く通常の暮らしに戻られますことをお祈りいたします。

また、７月１２日の緊急引き渡しの際には、子ども達全員を無事に引き渡すことができました。来校が遅くなりそうなご家庭からは、早い段階で連絡を入れていただき、こちらも安心して対応できました。ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

「マラソン大会」頑張りました。応援ありがとうございました。

６月２１日に「校内マラソン大会」を行いました。学年ごとに走るコースを設定して行いました。みんなが、自分の力を試そうと挑んでいました。

１、２年生は校庭を出て、歩道を走って帰ってきます。３、４年生は校門から出て歩道を走り、校庭に帰ってきて１周します。５、６年生は久野川沿いの桜土手を走り、校庭に帰ってきて半周したり１周半走ったりします。

保護者の皆様や地域の方々に声をかけていただき、子ども達は頑張って走りました。ありがとうございました。

暑い中での活動で、熱中症のような症状になった子がたくさん出たことは残念で、大変申し訳なく思います。今後こうしたことがないように危機意識をもち、十分に注意を払って活動します。

国際交流員さんの学校訪問がありました。

６月２９日に、雲南市国際交流員のデレクさんが木次小学校を訪問されました。１年生と２年生が交流をしました。

デレクさんは、アメリカの出身の方です。オレゴン州が故郷だそうです。

初めにオレゴン州の様子についてお話してくださいました。オレゴン州は、竜巻がアメリカでも多く発生する土地だそうです。竜巻がどんなものかも合わせて教えてくださいました。子どもたちは、日本とちがう自然環境に驚いたり、不思議に思ったりしながら聞いていました。

そのあと、アメリカ式のドッジボールを教えてもらい、みんなで体験しました。日本のドッジボールは、あたると外野に出て敵の内野の子をねらいますが、アメリカではあてられた子は待機場所に順番に並んで、応援しながらゲームを見ます。味方の内野の子が相手にあてると、待っていた順番に内野に復活します。

初めてのルールのドッジボールでしたが、１年生も２年生も楽しく活動しました。

盆踊りを習いました。

３年生の子ども達が木次の盆踊りを習いました。木次の文化を体験するというねらいで盆踊りの学習を行いました。指導には、さくら盆踊りの会の皆様に来ていただきました。盆踊りは初めてだという子ども達でしたが、丁寧に教えていただきマスターすることができました。子ども達は、３時間ほどの練習でしたが、３時間目にはみんなで円になり、太鼓に合わせて踊ることができるようになりました。本当にありがとうございました。

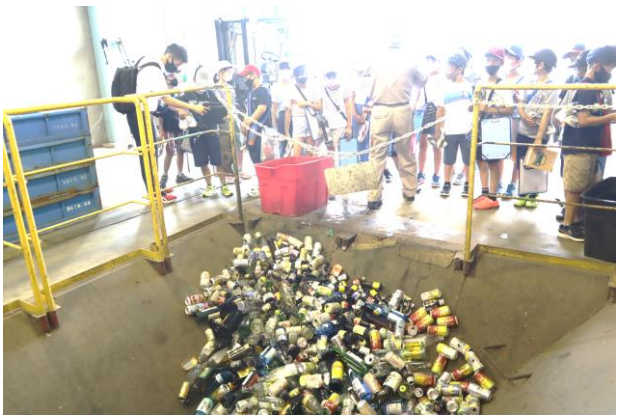
エネルギーセンターとリサイクルセンターの見学に行きました。

４年生が社会科の学習で、雲南エネルギーセンターとリサイクルセンターの見学に行きました。ごみから固形燃料を製造するのがエネルギーセンターです。ごみ処理という公共性の高い施設の見学を通して、市の人々の公衆衛生を維持するためにどんなことに取り組んでおられるか、工夫や仕事の大変さなどを学習しました。

アルミ缶やスチール缶、瓶などをリサイクルに回す作業を行うのがリサイクルセンターです。ここでは、手作業でアルミ缶とスチール缶や瓶を分ける作業をしていることやアルミ缶が押しつぶされて四角いかたまりになるところを見せていただきました。リサイクル、リユース、リデュース（再生、再利用、ごみ自体を減らす）についても、しっかりと学びました。

エネルギーセンターとリサイクルセンターの学習を通して、環境保全やリサイクルなどに対しての意識が高まりました。子ども達は、現場での迫力を五感で感じ、多くのことを学びました。

○知らないことがたくさん分かりました。燃えるゴミの中に燃えないゴミが入っていたら機械が壊れてしまうから分別に気をつけたいです。
○エネルギーセンターとリサイクルプラザでは、どのようなごみを処理しているかが分かったし、燃えるごみは固形燃料になることとごみ収集車のごみの重さを量っていることが分かりました。
○みんながちゃんと３Ｒ（リサイクル・リユース・リデュース）に取り組まないと、限りある資源がなくなってしまうので、ちゃんとやってほしいと思いました。
○雲南エネルギーセンターは燃えるごみを処理していて、燃えないゴミはリサイクルプラザで処理しているのだなと思いました。



木次図書館の見学に行きました。

２年生は、木次図書館の見学に行きました。校区内にある身近な場所です。しかし、疑問に思うことがあり、それを確かめに行きました。何冊くらい本があるのだろうか、何人くらいの人が働いているのだろうかなど、質問を用意していました。図書館の職員さんに答えていただいたり、ほかにも工夫しておられることなどを教えていただいたりしました。

また、本を借りに行きたいと言っていました。

肺蘇生法講習会を開きました。

公開日に、心肺蘇生法の講習会を開き、雲南消防署から救急救命士さんにおいでいただき教えていただきました。教職員は、毎年聞いていますが、今回はコロナ禍での心肺蘇生という視点もあり、大変参考になりました。人工呼吸ができないということで、心マッサージのみを行うということが分かりました。それは心肺蘇生には重要なことで、できるだけ早く発見をして早く心マッサージを行うことが大切だと教わりました。救急隊員さんが到着し、代わっていただくまで続けることも大切なポイントでした。

また、併せてＡＥＤ（除細動機）の使い方も訓練用のＡＥＤを使って、救急救命士さんが実演をしてくださいました。スイッチを入れると機械が言葉で指示を出します。その通りにセットして使うというものでした。日頃からＡＥＤがどこにあるかを記憶しておくことが大切だと感じました。

保護者の皆様には、Ｚｏｏｍを使って各教室から見ていただきました。細かいところや質問を受け付けるということができなかったのが残念ですが、大まかな方法をご理解いただけたのではないかと思います。

特別支援教育連載「かけはし」

今月も質問に応える形で連載をすすめていきます。

Q3　特別支援教育では、どのような学びの場があるのですか？

A 特別支援教育では、特別支援学校だけでなく、小学校、中学校、高等学校等すべての学校で行われます。子どもの障がいの状態や教育的ニーズに応じて、最も適切な場所で学ぶことができるように「多様な学び場」を用意しています。

木次小学校では、「通常の学級における指導」「通級による指導」「特別支援学級における指導」の３つの学びの場を用意しています。

「通常の学級における指導」では、集団の指導とともに、個々の子どもの実態に応じた指導内容や指導方法を工夫しています。また、市の支援員と県のにこにこサポーターによるきめ細やかな支援を行っています。担任と同じ場所で支援が行われたり、別の場所で支援が行われたりしています（あと２つは次号で紹介します）。